

分科会報告 ③-2

1. コーディネーター たなかゆうこ
2. テーマ 自分の好きなことを仕事にする
3. 参加者数 8名（宮城県1名 山形県7名）
4. ディスカッション内容

はじめに

参加者は、高校生・大学生、社会人では公務員・自営業と世代も職業も違う方々で、最初に自己紹介とこの分科会を選んだ理由、現在の課題などを順に話しました。

- ・高校生…地元での就職を希望している。将来、就きたい仕事ははっきりしている。
- ・大学生…これから就職活動で、県外の企業を希望。好きなことを仕事にしたほうがいいのか、趣味でやったほうがいいのか、考えている。
- ・社会人…親の勧めで公務員になった。パラレルキャリア（※本業を持ちながら、第二のキャリアを築くこと）を考えている。着物・染めものの自営業と地方自治体議員の二つの仕事をしている。

内容

〈現在の仕事の状況・取り組み〉

- 現在の仕事、好きなことを仕事にするために取り組んでいることなどをそれぞれ紹介。
- ・高校の就職担当の先生に、しっかり自分の希望を伝えている。
 - ・まだ情報収集の段階だが、社会人になって上手くコミュニケーションできるか不安。
 - ・大学で学んだことを生かして、「ブランディング」の仕事がしたい。好きな仕事かどうかは、がんばれるかどうか、だと思ふ。
 - ・好きな映画に関わる仕事をしたいと思うが、趣味の範囲でもいいのか、思案中。「自分はこういう仕事をしている」と、人に話したくなる仕事したい。
 - ・長く自分の好きな仕事内容ではなかったが、その間、資格などを取った。その後、人事のヒアリングで自分をアピールし、やりたい分野の仕事ができるようになった。思いを持ち続け、力をつけること、相手にもメリットがあることが重要だと思う。
 - ・定期的に異動があり、さまざまな分野の仕事を体験し、大変な面もあるが新鮮でもある。現在は、自分のやりたい仕事ができるようになってきた。家業の農業は担い手不足なので、「田んぼ」をきっかけに何かやれば…と考えている。
 - ・短大卒業後は東京で生産管理の仕事をしていたが、その後、家業の着物の仕事を継いだ。現在は、着物文化を伝えたいと奮闘中で、自分らしく仕事ができている。好きな仕事でも「くじける」ことはあり、それを前提に「諦めない」ことが大事だと思う。

〈世代間での質問〉

Q 社会人「若者が地元に残るには、何が必要か？」

A 高校・大学生「誇れる地域の良さ・安心・交通の利便性・東京で働き地元へ還元」

Q 高校・大学生「何か、今後へのヒントは？」

A 社会人「自分が楽しんで生きていることが大事。損得を考えるとマイナスな挑戦でも、それ以上に得られるものが大きいこともある。面白いとか面白くないとか、いろいろあるが、楽しいことの積み重ねで仕事も生活も楽しくなるのでは」

まとめ

高校・大学生の参加で、普段はなかなか聞けない異なる世代の話や意見が聞け、参考になったという声が多くありました。若い世代の将来を真剣に考える姿、社会人も現状に満足せずにレベルアップをめざす姿にお互いに刺激を受け、大変有意義な時間でした。